

イエスのことば 第7回

「まことに、まことに、あなたに告げます。人は、新しく生まれなければ、神の国を見る
ことができません。」(ヨハネ 3:3)

「まことに、まことに、あなたに告げます。人は、水と御霊によって生まれなければ、神
の国に入ることができません。」(ヨハネ 3:5)

□文脈の確認

1. メシアはユダヤ人の王として来る(マタ 2:2)。そしてメシアの王国では、ユダヤ人のみならず、全世界を治める。
2. イエスをその王である、と神が認めた出来事が、3つ続いて起きた。
 - (1) イエスがヨルダン川で先駆者ヨハネから洗礼を受けたときに、聖霊なる神が鳩の姿で現れ、父なる神の声が天から響いた。
 - (2) イエスが、荒野でサタンの誘惑を受けて、これを退けた。
 - (3) 先駆者ヨハネが、荒野から戻って来たイエスを指して、メシアであると証言した。
3. 第三の出来事に続いて、イエスの初期の弟子たち5人がそろった。
4. 先駆者ヨハネの証言から7日目、イエスは最初の奇跡を行った。
 - (1) イエスが5人の弟子たちと共に出席した婚礼の祝宴で、イエスが最初の奇跡を行った。ただし、イエスは、この奇跡を公然とは行わなかった。それは、まだ「イエスの時」が来ていなかったからである。
 - (2) ここでいう「イエスの時」は、イエスがメシアであることを示す奇跡を人々の前で行い、自分をメシアであると宣言する時である。
 - (3) その時はいつ、どこで開始するのか? 春の過越の祭り、エルサレムにおいてである。この祭りでは国の内外から多くのユダヤ人がエルサレムに集まる。
5. 婚礼の祝宴に出席した後、イエスは母や弟たち、そして5人の弟子たちといっしょに、ガリラヤ湖畔の町カペナウムに下って行き、長い日数ではなかったが、そこに滞在した(ヨハネ 2:12)。メシアとして立つ前の、最後の家族旅行であった。
6. カペナウムに滞在して「長い日数ではなかったが」、春の過越の祭りが近づいた。
7. 紀元27年の春、イエスは、5人の弟子たちを連れてエルサレムに上った。神殿域に入ると、そこにいた商売人たちを追い出して神殿を一時占拠し、自分がメシアであると宣言した。そして、過越の祭りの期間中、多くのしるしを人々の前で行った。
8. そのようなしるしを見た人々の中に、ユダヤ教パリサイ派の有力者のひとり、ニコデモがいた。本日のことばは、イエスとニコデモの対話の中でのことばである。

□アウトライン

A) ヨハネの福音書が記す 7 つの講話

B) パリサイ人

1. 神の国に関するユダヤ教パリサイ派の主張
2. 先駆者ヨハネの宣教活動に対するパリサイ派の態度
3. メシア宣言したイエスに対するパリサイ派の態度

C) ニコデモとの対話 (3 : 1~15)

1. ニコデモの訪問
2. 「新しく生まれる」(3 : 3)
3. 「水と御霊によって生まれる」(3 : 5)
4. 聖霊による新生
5. 聖霊による新生の 2 つのステップ
6. その後のニコデモ

□A) ヨハネの福音書が記す 7 つの講話

1. 3 : 1~36 紀元 27 年春、ニコデモとの対話と使徒ヨハネによる解説
2. 4 : 1~42 サマリヤの女との対話 「わたしが、それ (メシア) です」
3. 5 : 19~47 紀元 28 年春、ベテスダの池での癒しの後で 「わたしのことばを聞いて、わたしを遣わした方を信じる者は、永遠のいのちを持ち、さばきに会うことがなく、死からいのちに移っているのです」
4. 6 : 22~66 紀元 29 年春、5 千人の給食の奇跡の後、カペナウムの会堂で 「わたしは、天から下って来た生けるパンです」
5. 7 : 1~52 紀元 29 年秋、仮庵の祭りで① 「わたしが安息日に人の全身をすこやかにしたからといって、何でわたしに腹を立てるのですか」
6. 8 : 12~59 仮庵の祭りで② 「わたしは世の光です」
7. 10 : 1~42 生まれつきの盲人の目をあける奇跡の後で、そして続きを、紀元 29 年冬の宮きよめの祭りで・・・「わたしは羊の門です」

□B) パリサイ人

1. 神の国に関するユダヤ教パリサイ派の主張

- (1) 神はイスラエル民族を選んでくださった。イスラエル人は皆、来るべき世（メシアの王国）では王家の子たちである。ゆえに、全員が、来るべき世において割り当て地を持つ。
- (2) 来るべき世において割り当て地を持つのであるから、イスラエル人はだれ一人として、ゲヘナに落ちてその中の火を見るような者はいない。
 - ゲヘナ・・・永遠の死の場所。復活した悪人が体をもった上で、行く先。そこで、永遠に消えない火によって苦しむことになる。ゲヘナとは、ゲイ・ヒノム（ヒノムの谷）、かつて人身を焼いた場所の名に由来する。
- (3) ゲヘナの門の前には、アブラハムが座っていて、イスラエル人（割礼のある者）が万一間違って落ちて来ると、つかんで投げ戻してくれる。
 - アブラハム・・・イスラエル民族の先祖。アブラハム、イサク、ヤコブ。ヤコブの 12 人の息子からイスラエルの十二部族。「イスラエル」とは、ヤコブに神が与えた名。

2. 先駆者ヨハネの宣教活動に対するパリサイ派の態度

- (1) 先駆者ヨハネは、「悔い改めよ。神の国は近づいた」と説いた。

① 悔い改めるとは、向きを変えること

- 神に背を向けてきたことを認め、神の方に向きを変えること
- 向きを変えること自体には、反省、悲しみ、あるいは行動そのものを変えることまでは含まない。
- 神に背を向けることから、いろいろな具体的な罪が起きてくる。

② ヨハネのメッセージは、言い換えると、「罪を認めて赦しを受け、神の国に入る準備をせよ」ということ

- 認めるべき罪とは、第一にイスラエルの民族的罪。イスラエル民族が神に対して不従順であった歴史を振り返り、その民族的罪を認め、神の方に向きを変えることである。
- 第二に、個人的な罪。自分の罪を認めて神の方に向きを変えることである。

③ その表明として、ヨハネからヨルダン川で洗礼を受けよ。

- 洗礼とは、一体化の象徴。ヨハネの教えに賛同するという意思表示。

- (2) パリサイ派の基本的な考え方・・・アブラハム、イサク、ヤコブの子孫であるイスラエル民族であれば、神の選びの民であるというおかげで、自動的に神の国に入ることができる。

- (3) よって、ユダヤ人の指導者たちから派遣された調査団は、先駆者ヨハネの宣教活動に対して、「悔い改めるなど、その必要はない」との立場で観察していた。 →

マタイ 3:9 「われわれの父は、アブラハムだ」と心の中で言う

3. メシア宣言したイエスに対するパリサイ派の態度

- (1) 先駆者ヨハネが、イエスを指して、メシアであると証言した。パリサイ派としては、ヨハネの「罪の悔い改め」には賛同できない。そのヨハネの証言では、イエスが本当にメシアかどうかは、あやしい。
- (2) しかし、イエスは、紀元 27 年の春、過越の祭りのとき、エルサレムに来て、神殿域から商売人たちを追い出してメシア宣言をし、多くのしるしを行った。
 - ① 商売人たちは、先の大祭司アンナスの一族による私企業に属する者たち。
 - ② パリサイ派の中には、神殿域の商売人たちを指して、「アンナスの息子たちのバザール」と呼んで問題視する向きもあった。
 - ③ イエスの言動としるしを見ると、イエスは本当にメシアかもしれない・・・

□C) ニコデモとの対話

1. ニコデモの訪問

- (1) 3:2 「この人が、夜、イエスのもとに来て言った」
- (2) 3:2 「先生。私たちは、・・・」
- (3) 3:2 「あなたが神のもとから来られた教師であることを知っています。神がともにおられるのでなければ、あなたがなさるこのようなしるしは、だれも行うことができません」

2. 「新しく生まれる」(3:3)

- (1) 3:3 イエスは答えて言われた。「まことに、まことに、あなたに告げます。人は、新しく生まれなければ、神の国を見ることができません。」
- (2) ニコデモの質問 3:4 「人は、老年になっていて、どのようにして生まれることができるのですか。もう一度、母の胎に入って生まれることができるのでしょうか」
 - ① 「新しく生まれる」・・・パリサイ派のニコデモには、「新しく生まれる」とはどういうことなのか、一定の理解があった。
 - ② だから、「新しく生まれるとは、どういうことですか」とは質問せずに、「老年になっていて、どのようにして生まれることができるのですか。もう一度、母の胎に入って生まれることができますでしょうか。」と質問した。
 - ③ ニコデモの理解では、人生において新しく生まれる時が幾度かある。自分はすでに 4 回新生して、この年になっている。さらに新生が必要というなら、もう一度、母の胎に入って生まれてきて、あらためて人生を歩みながら、新生を経験する必要があるのか? という問いである。

(3) パリサイ派では、「新しく生まれる」ことは、6 つ。

- ① 異邦人がユダヤ教に改宗するとき
- ② 王になるとき
- ③ 13 歳で成人となる時
- ④ 結婚するとき（通常は、16～20 歳）
- ⑤ ラビに任ぜられたとき（通常は、30 歳代）
- ⑥ ラビの学校の校長になったとき（通常は、50 歳代）

(4) ニコデモは、3 : 1「ユダヤ人の指導者」とある。ユダヤ議会サンヘドリンの 71 人のメンバーの一人。6 つのうち、③から⑤を満たしている。3 : 10「イスラエルの教師」＝定冠詞付きの教師、これは、6 つのうち⑥であることを示す。よって、ニコデモは、生涯のうち、彼が新生できる 4 つの時をすべて経験していた。

3. 「水と御霊によって生まれる」(3 : 5)

(1) 3 : 5 イエスは答えられた。「まことに、まことに、あなたに告げます。人は、水と御霊によって生まれなければ、神の国に入ることができません。」

(2) 「水によって生まれる」・・・パリサイ派の文献では、この表現は、人が両親から生まれることをさす。水は、男性の精液の象徴（箴言 5 : 15～23）であることに由来する。

- ① パリサイ派では、イスラエル人として生まれたら、神の国に入れると教えていた。
- ② イエスは、肉体的に生まれるだけではなく、さらに御霊によって生まれる必要があると教えた。

- 御霊・・・神の霊、聖霊。三位一体の神の、第三位格。

4. 聖霊による新生

(1) 3 : 6 「肉によって生まれた者は肉です。御霊によって生まれた者は霊です。」

(2) なぜ、聖霊による新生をしなければ、神の国に入れないのか。その理由がここにある。

- ① 「肉によって生まれた者は肉です。御霊によって生まれた者は霊です。」
- ② 生まれながらの人は、罪びとであり、霊的には死んだ者である。霊的には神から分離された状態にある。
- ③ 御霊の導きに従って、人が罪を悔い改めて神の方に向きを変えるとき、その人の罪は赦され、霊的に神との交わりの中に入る。霊的に生きた者となる。
- ④ このとき、その人は、心の中に神の支配を受け入れることになる。霊的な神の国に入ったのである。
- ⑤ 霊的な神の国の一員となった人が信者であり、信者だけが、来るべき世＝メシアの王国に入ることができる。

- (3) メシアの王国に入るためには、まず霊的な神の国の民となる必要がある。
しかし、それは御霊の導きによることである。神によって生まれることであり、
肉の欲求や人の意欲によるのではない（ヨハネ 1:13）。御霊の働きに身をゆだね
よ。3:8 「風は思いのままに吹き、あなたはその音を聞くが、それがどこから
来てどこへ行くかを知らない。御霊によって生まれる者もみなそのとおりです。」

5. 聖霊による新生の2つのステップ

- (1) ニコデモの驚き 3:9 「どうして、そのようなことがありうるのでしょうか」
(2) イエスは、3:10~13 で、ご自身が「天から下った者」と示された。
(3) 次に、聖霊による新生が2つのステップを経て起きることを教えた。第一ステッ
プ：神の側、第二ステップ：人の側。
(4) 3:14~15
① 民数記 21:4~9
② 3:14 第一ステップ：モーセが荒野で青銅の蛇を上げたように、イエスも十
字架に上げられなければならない。父なる神は、御子を遣わし、御子を通し
てすべての人のために救いを提供する。
③ 3:15 第二ステップ：人の側には、それを信じる必要がある。救いを受け取
るのは信仰を通してである。「それは、信じる者がみな、人の子にあって永遠
のいのちを持つためです」

6. その後のニコデモ

- (1) ヨハネ 7:45~52 ユダヤ人の議会でイエスを弁護する意見を述べた
(2) 十字架にかかれたイエスを見たとき、ニコデモの心の中には、あの日の夜のイ
エスのことばが鮮やかによみがえり、響いたことであろう。「モーセが荒野で蛇を
上げたように、人の子もまた上げられなければなりません。それは、信じる者が
みな、人の子にあって永遠のいのちを持つためです。」（ヨハネ 3:14~15）
(3) ヨハネ 19:38~41 同じく議員であった（マルコ 15:43）ヨセフという人がイ
エスの遺体の下げ渡しを受けたとき、ニコデモもヨセフといっしょにイエスの遺
体を処置して墓に納めた。これは、自分たちがイエスの弟子であること（信者で
あること）を表明することでもあった。